

2022年8月1日

各国公私立大学長 殿

南山大学

学長 ロバート・キサラ

2022年度南山大学「人間の尊厳賞」被表彰候補者の推薦について（ご依頼）

平素より、本学の教育・研究に対し、格別なるご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本学は2021年に創立75周年を迎え、その記念事業の一つとして南山大学「人間の尊厳賞」を創設いたしました。この賞は毎年1名または1団体・組織を表彰するものであり、本年度も下記のとおり第2回の表彰を実施いたします。

つきましては、貴学または貴学関連団体において被表彰候補者がいらっしゃいましたら、表彰推薦調書によりぜひご推薦くださいますようお願い申し上げます。

なお、提出していただく資料に記載された個人情報については、原則として表彰の目的以外には使用いたしません。

記

1 表彰制度概要

別紙 2022年度南山大学「人間の尊厳賞」実施要綱、趣意書および第1回受賞にかかる新聞記事の写しをご参照ください。

2 表彰までのスケジュール

- ① 2022年10月～11月に開催予定の学内委員会にて第一次選考を行います。
- ② 2023年1月～3月に開催予定の選考委員会にて被表彰者を決定し、発表します。
- ③ 2023年5月26日に開催予定の表彰式・記念講演会において、本学学長から被表彰者に対し表彰楯を、同窓会長から副賞を授与します。また、記念講演会を実施します。

3 表彰推薦調書の提出方法及び提出先

次のページから南山大学「人間の尊厳賞」表彰推薦調書（Word文書）をダウンロードいただき、
<https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/>

南山大学学長室内「人間の尊厳賞」事務局宛てに、ファックスまたはE-mailにて、ご提出をお願いいたします。

ファックス：052-832-0666

E-mail：gaku-koho@nanzan.ac.jp

4 推薦期限

2022年9月9日（金）までにお送りいただきますようお願いいたします。

〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18 南山大学学長室内「人間の尊厳賞」事務局

電話：052-832-3113 FAX:052-832-0666 E-mail：gaku-koho@nanzan.ac.jp

以上

2022年度南山大学「人間の尊厳賞」実施要綱

1. 賞設立の趣旨

南山大学は、2021年、前身の南山外国語専門学校（旧制）創設から75年の記念の年を迎えました。その創設から3年後、南山大学として生まれ変わり、新たなスタートを切る際、後に南山学園理事長に就任するボルト神父の発案により、「Hominis Dignitati（人間の尊厳のために）」を教育モットーとして掲げました。その後、本学は8学部6研究科を擁する総合大学へと発展し、この間、教育・研究活動に邁進してまいりました。

大学創立75周年という記念の年を迎えるに際して、南山大学は、これまでの発展に感謝するとともに、この建学の理念に立ち返り、本学が果たすべき使命を再認識するため、南山大学「人間の尊厳」賞を創設いたしました。「人間の尊厳のために」という理念の実現に多大な貢献を果たしている人物、組織等を表彰することにより、本学の理念をあらためて広く社会に理解して頂き、学内外の人々とこれを共有することを目的とします。

2. 選考対象

自らの尊厳と他者の尊厳を認め、一人ひとりをかけがえのない存在として様々な活動に取り組む個人または団体・組織から、1名または1団体を表彰する。

3. 副賞

賞金 50万円

4. 発表および表彰式

発表：2023年3月上旬

表彰式：2023年5月26日（金、南山大学創立記念日） 於 南山大学

5. 選考方法

南山大学の学内選考を経て、学長および学外有識者からなる選考委員会にて決定する。

6. 後援

南山大学同窓会

7. 事務局・問い合わせ先

南山大学学長室内「人間の尊厳賞」事務局

〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18

電話：052-832-3113 E-mail：gaku-koho@nanzan.ac.jp

南山大学「人間の尊厳賞」表彰推薦調書

年 月 日

| 候補者 | | | |
|-----------------------|---|------------------|-------|
| ふりがな 氏名または 団体名 | | 設立年月日 (団体の場合) | 年 月 日 |
| 居住地 ・所在地 | 〒 | | |
| 代表者 職氏名 (団体の場合) | | 構成人員 (団体の場合) | 名 |
| | | TEL: | |

| 推薦者 | | | |
|--------------|---|------|--|
| ご所属 ・お役職 | | ご氏名 | |
| ご住所 ・ご連絡先 | 〒 | | |
| | | TEL: | |
| E-mail | | | |

| | |
|--|------------------------------|
| 活動歴 (団体の場合 は沿革およ び構成等を 含む) 活動の内容 ・実績 | 活動歴 年ごろから約 年 活動の内容・実績 |
|--|------------------------------|

| | |
|--|--|
| <p>功績となる 具体的内容</p> | <p>「人間の尊厳のために」という理念の実現に多大な貢献を果たしていると思われる功績の具体的内容</p> |
| <p>その他 特記事項が ございましたら ご記入 ください。</p> | |

2021年4月5日

南山大学「人間の尊厳賞」の創設について

学長 ロバート・キサラ

南山大学は、本年、前身の南山外国語専門学校（旧制）創設から75年の記念の年を迎えています。その創設から3年後、戦後の学制改革により、名古屋外国語専門学校と改称していた同校は、新制の南山大学に生まれ変わり、新たなスタートを切ることになりました。その際、後に南山学園理事長に就任するボルト神父の発案により、本学は、教育モットーとして「Hominis Dignitati（人間の尊厳のために）」を掲げることとしました。

私たちは、これを、一人ひとりがまず自分の尊厳に気づき、その徹底を図る一方、他者の尊厳を認め、共に、人間の尊厳が尊重され推進される社会づくりに役立とう、という生き方を培うものだとして説明しています。中学・高校においても同様に「人間の尊厳のために」と言っていますが、附属小学校では、これを「かけがえのないあなたと私のために」と表現しています。いずれにしても、南山大学および南山学園が教育モットーとして掲げるこの言葉は、簡潔ながら力強く、しかもその意義は深いと思います。学窓を離れ半世紀近く経った卒業生の皆さんが、あらためて母校の教育モットーに感激して下さるのは、まさにそうした側面を表すものだと言えましょう。

私たちは、大学創立75周年という記念の年を迎えるに際して、これまでの大学の発展に感謝するとともに、この建学の理念に立ち返り、南山大学が果たすべき使命を再認識しなければなりません。そこで、私は、この記念すべき年に、南山大学「人間の尊厳賞」を創設することとしました。一私立大学のささやかな試みですが、営利組織ではできない、高等教育機関たる大学ならではの試みだと考えています。「人間の尊厳のために」という理念の実現に多大な貢献を果たしている人物、組織等を表彰することにより、本学の理念をあらためて広く社会に理解して頂き、学内外の人々とこれを共有したいと考えています。

皆様方のお力添えを賜り、南山大学にふさわしい賞に作り上げていく所存です。ご理解、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

全盲の青木さん初の受賞者

南山大が「人間の尊厳賞」創設

南山大は三月二十九日、人間の多様性を認め、互いを尊重し合う活動に取り組む個人、団体をたたえ、「人間の尊厳賞」を創設し、第一回の受賞者に中国・天津市で日本語を教える全盲の青木陽子さん(60)を選んだと発表した。

青木さんはさいたま市出身で、六歳で全盲となった。同大卒業後に米国の大

学へ進んだ際、中国から障害のある留学生が来ていることに気づいた。天津市へ渡り、一九九四年に授業料が無料の日本語学校を設立。運営費は、会長を務める、アジア視覚障害者教育協会(さいたま市)の会費や寄付で賄っている。視覚障害の有無にかかわらず学べ、四百五十人以上の卒業

生を日本の大学などへ送り出した。
コロナ禍で、現在は日本を拠点にする青木さんは「みんなが生きたいように生きられる社会にするために教育が必要と思い、中国で活動してきたことが評価されてうれしい」と話した。(出口有紀)



人間の尊厳賞を受賞した青木さん＝南山大提供

中日新聞 2022年4月3日(日)

人間の尊厳賞受賞

全盲の日本語教師でアジア視覚障害者教育協会会長、青木陽子さん(60)にさいたま市見沼区が、南山大(ロバート・キサラ学長、名古屋市昭和区)が新設した「人間の尊厳賞」を受賞した。



第1回「人間の尊厳賞」を受賞。表彰状を持つ青木陽子さん(右)と南山大のロバート・キサラ学長(名古屋市昭和区)の南山大・クラッテンホール

全盲の日本語教師でアジア視覚障害者教育協会会長、青木陽子さん(60)にさいたま市見沼区が、南山大(ロバート・キサラ学長、名古屋市昭和区)が新設した「人間の尊厳賞」を受賞した。

同賞は、創立75周年を迎えた南山大が「人間の尊厳のために」という教育のモットーを実現する個人・組織を表彰する顕彰事業。第1回受賞者に青木さんが選ばれた。6歳で全盲になった青木さんは県立盲学校(現埼玉第一学園)などを経て南山大を卒業。米国の大学院を修了後、中国・天津に渡り、1995年に日本語学校を設立した。これまで障害の有無にかかわらず522人の学生を無料で受け入れ、視覚障害者の自立支援や人権教育、国際理解推進に貢献してきた。

同大ホールで先月末に開かれた表彰式。キサラ学長から表彰状を受け取った青木さんは「教育こそ未来をひらく人間の尊厳を守るために」をテーマに記念講演した。

「ロシアによるウクライナへの軍事侵攻をはじめ、テロや貧困、気候変動や災害にコロナ禍が追い打ちをかけ、こ

れまで当たり前だった日常が奪われ、世界中で人間の尊厳が踏みしめられている」と語り始めた青木さん。

しかし、そうした危機的な状況に直面している時だからこそ「教育は内なる活力に従って生きようとする人間一人一人の権利。ハンディを乗り越えて自己実現を図る手段と

なり、より良い社会を作る原動力にもなり得る」と教育の重要性を強調した。

講演は交流サイト(SNS)でも同時配信され同大の学生も視聴。最後に青木さんは「思考を止めず、複眼思考を持ち、歴史を記録する証言者になっ

てほしい」と期待を込めた。

(菊地正志)

「尊厳賞」青木さん表彰 南山大 中国で日本語教育



ロバート・キサラ学長から盾を贈られた青木さん(右)

南山大(名古屋市昭和区)が創立75周年記念事業の一環として創設した「人間の尊厳賞」の表彰式が26日、同大で行われ、初代受賞者に選ばれた「アジア視覚障

害者教育協会」会長の青木陽子さん(60)に表彰盾が贈られた。

同賞は、同大の教育理念「人間の尊厳のために」の実現に向けて貢献した個人

や団体に贈られる。

6歳で全盲となった青木さんは同大を卒業後、米国内と中国に留学。1994年に天津市で無料の日本語学校を設立し、長年にわたって視覚障害者らに日本語教育を行った。

表彰式の後、記念講演会が開かれ、青木さんが「教育こそが未来を拓く人間の尊厳を守るために」をテーマに講演。英国の哲学者ジョン・スチュアート・ミルの「人間性は樹木のようなものだ」で始まる名言を心の糧に、視覚障害者の道を切り開いた教育活動を紹介し、多様性を訴えた。